昭和53年度予算が成立
第一回定例会

昭和五十三年第一回定例会は、三月十一日より二十四日までの会期十四日間で議件二十件についてそれぞれ慎重な審議がされました。

大別すると、一部事務組合の規約変更一件、条例関係十一件（一部改正九件新たな制定二件）、村道認定一件、予算七件（五二年度補正三件五三年度当初予算四件）であり、十七件が満場一致で、三件が採決により賛成多数でそれぞれ可決成立しました。

≪議会だより≫

㈠ 一部事務組合関係

新潟県町村職員退職手当組合の規約の変更については、新たに西山・刈羽ガス企業団が加入したいというものです。

㈡ 条例制定

○ **育児休業に係る給与等に関する条例の一部を改正する条例**については、広報つきがた九月号に関連した人事院勧告に伴うもので、専決処分されたものであり、内容は育児休業中の職員に対して、無給であったものが共済費（社保保険料に当るもの）分を給与として、支給することに改正したものです。

○ **三役の給与等の改正（正式条例名略以下同じ）本議会議員の報酬等の改正（〃）教育長の勤務条件の改正（〃）各種委員の報酬等の改正（〃）消防団員の報酬等の改正（〃）**の五件については、前記人事院勧告による職員の給与の上昇を勘案して、それぞれ報酬、給与の額を改定するものであり、三役の給与等の改正（〃）について賛否が別れ、採決となり賛成多数（九名）により決しました。

○ **月潟村国民健康保険条例の一部改正**は、五三年四月一日より、育児手当の支給額を、二千円から六千円に改正するものであり、**国民年金印紙購買基金条例（正式名省略）の一部改正**は、一般会計より基金への繰出額を六〇〇〇千円から九〇〇〇千円に改正するものであり、これは翌年三月末日に、一般会計へ戻されるものです。

又**月潟村職員定数条例の一部改正**は、職員を2名増員したいというものであり、現今の財政状況と事務、事業量の増大の面から賛否が別かれ採決となり賛成多数（八名）により決しました。

○ **新たに条例制定したもの**

月潟村就業改善センター設置及び管理に関する条例

本条例は、農村地域工業導入促進法の特認事業であるセンターの建設が五三・五四の二ケ年で建設されますが、これに伴いセンターの利用方法等について規定したものです。

又**月潟村社会教育委員設置条例**については、社会教育法の規定により社会教育委員を置くもので、本年は六月より予定されておりましたが県の指導により四月から認められることとなり今定例会に、設置することになりました。

㈢ 村道認定

村道第一〇二号線が認定されました。この路線は大字西萱場地内桜井悟（敬称略以下同じ）前より関本武夫前までの一八三米であり通学通路等で重要です。

㈣ 補正予算（三件）

○ **一般会計補正予算**は才入才出を三五八六千円増額し各々総額を七一一三二九千円とするもので、才入の主なものは、地方交付税が一九三七千円国県支出金が一九三一千円その他増減があります。

才出の主なものは総務費中、土地開発基金へ一〇〇〇千円曲公民館補修費一〇〇〇千円月潟駅の処に建設した自転車小屋前の舗装工事二五〇千円、民生費中、老人医療費で六二七千円衛生費中、国保会計へ一〇〇〇千円の繰出農林水産業費中、モデル事業のための図面等八五一千円商工業中、店舗改善資金利子補給五二五千円土木費中、村道六三号線工事費（前年度中に工事したもの）の増額分四五四千円等でありその他負担金や消耗品等の物件費の減額です。

本予算は文中の土木費を主として賛否が別かれ採決の結果、賛成多数（九名）により決しました。

○ **国民健康保険特別会計補正予算**は才入才出を一〇〇二三千円増額し各々総額を一四一三二四千円とするものであり才入は、国庫支出金及び一般会計繰入金を主としており才出は、療養費です。

○ **簡易水道特別会計補正予算**は、才入才出を三九〇千円増額し各々二四六六五千円とするもので、才入は使用料の増と各負担金であり才出は、積立金の増額と消耗費の減です。

㈤ 各会計当初予算（四件）

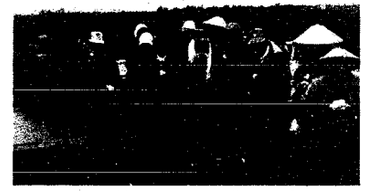
別掲により省略します。

ホーッうめえなあ　オヤツはおにぎりでした

月潟農家組合（組合長竹内久衛さん）では、去る四月四日、春の総出普請を行ないました。

午前十時、小雨で肌寒いなかの作業を一時中止して一服。こびり（おやつ）で用意されたほかほかのおにぎりに「いやーっにぎりめしも、こうして喰うとうめえもんだの――。」こんな和やかな風景（写真）がありました。

これは、最近、大きな社会問題となっている「米」の過剰による生産調整に対処して、三月三十日に月潟村農政対策協議会



おにぎりのおやつで〝マンゾク〟

などが主催して月寿荘で開かれた「米消費拡大推進会議」の発足を機に、「農家が先づは率先して。」ということで計画されたおにぎり作戦ということとでした。

三十日の会議では、村内の各地域代表者が参加。停滞している米の消費を拡大するための意見発表がありました。最近の情勢では、○昭和五十年に学校給食に米飯給食が認められ、米消費に変りつつあること。○遠足などでは大多数が「おにぎり」をもっていっていることや、子供達は米を好んで食べていること。○加工食品でも、おいしい「オヤツ」が開発されていること。など、明るい展望もありますが、農協中央会が行なった意識調査結果では、食生活の面では個性化、簡便化志向のニーズがますます強くなり、一層「飽食世代」が増えて、米が敬遠されるのではないかという分析結果もあり、楽観できない状況です。

米は、すぐれた蛋白質を含み、その栄養価は高く、かつ、弁当の持参による経済的なメリットもあり、朝ごはんの効用などとあわせて、日本人の主食に最適な食糧ということができるでしょう。

ナシ赤星病の一掃に　ビャクシン類の撤去を!!

三年前に大発生し、果樹経営に大きな被害をもたらしたナシ赤星病も、みなさんのご協力により発生が稀となりました。

しかしながら、住宅の新築等に伴ない、緑化木の新植が進み、知らずに**赤星病の発生源となるビャクシン類（カイズカイブキ、シンパク、タマイブキ、ハイネズ、トショウなど）**が植え込まれるケースがあります。

この赤星病菌は、これらの樹木に越冬し、四月中旬～五月初旬にかけて冬胞子堆となって二キロメートルの範囲に飛散してナシの若葉や果実について被害が発生します。

これは薬剤防除だけでは防ぐことができず、主因となるビャクシン類の撤去によらざるを得ないわけです。

村内にこのような樹木が植えられていた場合は撤去くださるよう特段のご協力をお願いします。

赤星病にかかった葉

田植は三百円アップに!

月潟村農政対策協議会では、郡内の町村の情勢をみながら、昭和五十三年の農作業協定料金を決めました。

協議会では、この励行をはかるため、チラシを全農家に配布することにしていますが、人手不足に起りがちな「協定違反」のないよう、お互いに守りましょう。

＝ことしの農作業協定料金＝

一、春作業

○耕起　10アール当り三千八百円

○代かき10アール当り四千四百円（以上機械送迎料は別）

○育苗　一箱五百円（種籾代金は別）

○田植

機械　10アール当り三千七百円　人力　一人一日　四千三百円（人力の場合、就業時間は午前六時三十分から午後六三十分までとし、おみやげは出さない。又、中食は折箱にしないこと。）

二、秋作業

○刈取　10アール当り壱万七千四百円

○乾燥・調整

一袋（60Kg）当り千四百円

なお、耕起から調整までの一連の作業委託については、協定料金の五%を減額することにしています。

くわしいことは、配布されるチラシをよく読んでください。

～昭和53年度～　保健委員など任命

昭和五十三年度の保健委員などが次のとおり任命されました。今年度の保健衛生事業での村民の皆さんとのパイプ役です。よろしくお願いします。（敬称略）

◎食生活改善推進委員

五十嵐藤重　堀　マサ子
近藤勝子　田中エミ
友坂悦子　高橋容子
河井チイ子　曽山キヨ
山口ヨシエ　岩本トミ

◎予防衛生委員

田辺幹子　関根ミヨキ
白倉ハナ　薄田アイ
宮本ミヨ　渡辺スミエ
中島スイ　小林リョ
児玉宏子　長沼ヨシ
星野アキ　小湊キイ
川井文子　太田ノリ子
八子和子　田辺チエ
田辺チエ　野沢ハル
木村礼子　時田スイ
石川ミツイ　児玉フサエ
浅間ソイ　神保加代子
後藤チカ　長岡ハナ
岩本トミ　大橋章子
角田タキ

◎公衆衛生委員

鏡栄作　鏡作蔵
金子一栄　山田清松
近藤重隆　坂井一郎
木村喜一　高橋高一郎
山田一二三　荻原松朔
塩浦清一　児玉重一

◎母子保健推進委員

深沢キヨ　鷲尾尚子
近藤勝子　服部クニ
野沢トミ　小林美津子
白倉政枝　長沼和代
後藤郁磯　貝幸枝

☆☆　善意をありがとう

下曲通の金塚関松さんは、先に奥さんを亡くされましたが、故人が生前、村にお世話になったとして、香典返しで一万円を寄附されました。

村では、社会福祉のため有効に使わせて頂きます。心からご冥福をお祈り申し上げますと共に、御礼申し上げます。

堆肥づくりで　良質米安定生産を!!

堆肥共進会開催

第二回堆肥共進会が三月二十九日、村農業振興協議会の主催で開催されました。

近年、農業機械の普及で水田作業が合理化され、土壌改良が忘れられようとしていますが、地力維持増強による稲作の安定生産を確立するための手段として、堆肥生産の拡大をねらって行なわれたものです。

出品は、水稲作付面積一ヘクタール以上を有し、かつ、二割以上の面積分を堆肥として生産した農家を対象に、各部落から選出された計十六点について堆肥重、品質及び管理などにそれぞれ審査項目を設け、採点により審査がされました。

成績は次のとおりでした。

米作りは、土地づくりからです

◎**個人の部**（敬称略）

一位　高柳正一
二位　大谷良弘　小山久司
三位　曽山茂　長岡章　五十嵐守

◎**団体の部**

一位　釣寄農家組合生産部
二位　釣寄新農家組合生産部
三位　木滑第一農家組合生産部